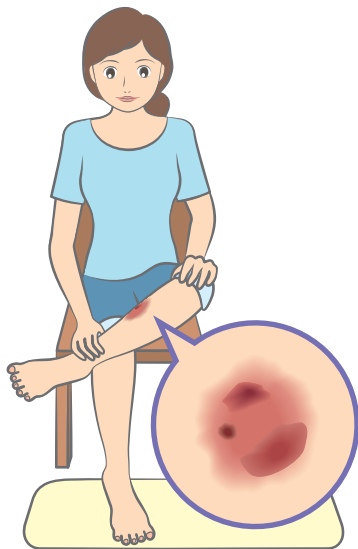


湿疹用の薬を数カ月塗っていても湿疹が治りません
「ボーエン病」の疑いがあります
立川皮膚科クリニック
www.tachikawa-derma.com

ボーエン病



直径数センチの円形または楕円形の斑状で、表面が盛り上がりついていたり、かさぶたが付着したような皮疹ができる「ボーエン病」について、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医の立川皮膚科クリニック院長・伊東秀記先生に聞きました。

「どんな病気ですか？」
「湿疹や乾癬（かんせん）などの皮膚病によく似ていますが、炎症を抑える湿疹用のステロイド剤を数カ月塗っても改善しない場合、「ボーエン病」の疑いがあります。ボーエン病は皮膚の表皮内だけに病変が生じ、高齢者にも多く発症します。全身どこにでもできることがあります。放置すると表皮内で異常な角化細胞が増殖し、有棘（ゆうきょく）細胞がんに移行する恐れもあるので注意が必要です」

「原因は？」
「はっきりとした原因は不明ですが、紫外線やヒトパピローマウイルスが関与していると考えられています。全身に多発する場合はヒ素の摂取と関係があります」

「治療法は？」
「まず病変の一部を切り取って生検を行い、確定診断をします。治療法としては幹部を切除する外科治療を行います。湿疹が治りにくいと思ったら、まずは皮膚科の医師に相談を」

院長：伊東秀記
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、東京慈恵会医科大学医学部卒業



休診日：日曜、祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30~ 13:30	○	○	○	○	12:30まで 受け付け	○
15:00~ 19:30	○	○	○	○	18:30まで 受け付け	17:30まで 受け付け

問い合わせ
☎042-843-1377
JR「立川」駅南口徒歩2分

2018年11月10日付 「リビング多摩」に掲載されました